

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3151027号
(U3151027)

(45) 発行日 平成21年6月4日(2009.6.4)

(24) 登録日 平成21年5月13日(2009.5.13)

(51) Int. Cl. F 1
HO 4 R 1/10 (2006.01) HO 4 R 1/10 1 O 4 Z
A 4 5 D 8/00 (2006.01) A 4 5 D 8/00 F

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2009-1814 (U2009-1814)
 (22) 出願日 平成21年3月26日(2009.3.26)

(73) 実用新案権者 390020019
 スルガ株式会社
 静岡県榛原郡吉田町川尻3308番地
 (74) 代理人 100092680
 弁理士 入江 一郎
 (74) 代理人 100154472
 弁理士 新庄 孝
 (72) 考案者 山 中 藍
 静岡県榛原郡吉田町川尻3308番地 スルガ株式会社内

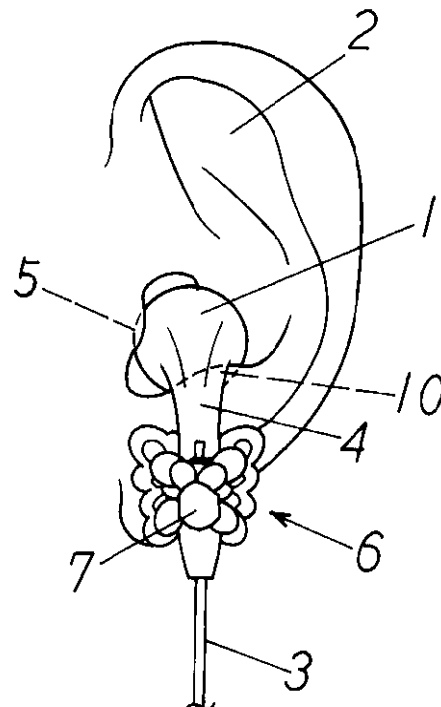
(54) 【考案の名称】 イヤホン用アクセサリー及びイヤホン

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】イヤホンに装飾的効果を付加することができるイヤホン用アクセサリーを提供する。

【解決手段】イヤホン用アクセサリーは、支軸を介して相互に回動可能に連結され、支軸より基端側に一对の把持部を、支軸より先端側に一对の挟持部を、それぞれ有するクリップ6と、このクリップ6に取り付けられたアクセサリー7とを有し、一对の挟持部は、弾性部材により挟持されるものであり、クリップ6が一对の挟持部を介して耳穴に装着して使用するイヤホン1の接続コード導出部4に取り付けることができる。

【選択図】 図2



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

支軸を介して相互に回動可能に連結され、前記支軸より基端側に一对の把持部を、前記支軸より先端側に一对の挟持部を、それぞれ有するクリップと、
 このクリップに取り付けられたアクセサリーとを有し、
 前記一对の挟持部は、弾性部材により挟持されるものであり、
 前記クリップが前記一对の挟持部を介して耳穴に装着して使用する前記イヤホンの接続コード導出部に取り付けることができる
 ことを特徴とするイヤホン用アクセサリー。

【請求項 2】

電気音響変換素子を内蔵し、耳介の凹部に装着された状態で前記耳介の一部により支持されるように形成されたイヤホン本体と、
 前記電気音響変換素子に信号を供給する接続コードと、
 この接続コードを前記耳介の耳珠と対珠の間の方に導出する接続コード導出部と、
 支軸を介して相互に回動可能に連結され、前記支軸より基端側に一对の把持部を、前記支軸より先端側に一对の挟持部を、それぞれ有するクリップと、
 このクリップに取り付けられたアクセサリーとを有し、
 前記一对の挟持部は、弾性部材により挟持されるものであり、前記クリップが前記一对の挟持部を介して前記イヤホンの接続コード導出部に取り付けられている
 ことを特徴とするイヤホン。

【請求項 3】

支軸を介して相互に回動可能に連結され、前記支軸より基端側に一对の把持部を、前記支軸より先端側に一对の挟持部を、それぞれ有するクリップと、
 このクリップ自体に装飾が施されて、前記クリップがアクセサリーとして利用することができるものであり、
 前記一对の挟持部は、弾性部材により挟持されるものであり、
 前記クリップが前記一对の挟持部を介して耳穴に装着して使用する前記イヤホンの接続コード導出部に取り付けることができる
 ことを特徴とするイヤホン用アクセサリー。

【請求項 4】

電気音響変換素子を内蔵し、耳介の凹部に装着された状態で前記耳介の一部により支持されるように形成されたイヤホン本体と、
 前記電気音響変換素子に信号を供給する接続コードと、
 この接続コードを前記耳介の耳珠と対珠の間の方に導出する接続コード導出部と、
 支軸を介して相互に回動可能に連結され、前記支軸より基端側に一对の把持部を、前記支軸より先端側に一对の挟持部を、それぞれ有するクリップとを有し、
 このクリップ自体に装飾が施されて、前記クリップがアクセサリーとして利用することができるものであり、
 前記一对の挟持部は、弾性部材により挟持されるものであり、
 前記クリップが前記一对の挟持部を介して前記イヤホンの接続コード導出部に取り付けられている
 ことを特徴とするイヤホン。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、イヤホン用アクセサリー及びイヤホンーに係り、特に、イヤホンに装飾的効果を付加することができるイヤホン用アクセサリー及びイヤホンに関する。

【背景技術】

【0002】

イヤホンに装飾部材を取り付けたものとして、イヤホン・ヘッドホン用アクセサリー

10

20

30

40

50

がある（例えば、特許文献 1 参照）。

これは、イヤホンのライン部（接続コード）に装飾部材を取り付けるようにしたものである。

【 0 0 0 3 】

しかしながら、上述の「イヤホン・ヘッドホン用アクセサリ」にあつては、装飾部材をイヤホンのライン部（接続コード）に取り付けているため、ライン部（接続コード）に荷重が作用し、イヤホンのライン部（接続コード）の接続部位を損傷するという問題点があった。

【 0 0 0 4 】

【特許文献 1】特開 2 0 0 7 - 1 4 2 5 3 8 号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【 0 0 0 5 】

本考案は、上記問題点を除去するようにしたイヤホン用アクセサリ及びイヤホンを提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 6 】

前記した目的を達成するための本考案のイヤホン用アクセサリは、支軸を介して相互に回動可能に連結され、前記支軸より基端側に一对の把持部を、前記支軸より先端側に一对の挟持部を、それぞれ有するクリップと、このクリップに取り付けられたアクセサリとを有し、前記一对の挟持部は、弾性部材により挟持されるものであり、前記クリップが前記一对の挟持部を介して耳穴に装着して使用する前記イヤホンの接続コード導出部に取り付けることができるものである。

【 0 0 0 7 】

また、請求項 2 記載のイヤホンは、電気音響変換素子を内蔵し、耳介の凹部に装着された状態で前記耳介の一部により支持されるように形成されたイヤホン本体と、前記電気音響変換素子に信号を供給する接続コードと、この接続コードを前記耳介の耳珠と対珠の間の下方に導出する接続コード導出部と、支軸を介して相互に回動可能に連結され、前記支軸より基端側に一对の把持部を、前記支軸より先端側に一对の挟持部を、それぞれ有するクリップと、このクリップに取り付けられたアクセサリとを有し、前記一对の挟持部は、弾性部材により挟持されるものであり、前記クリップが前記一对の挟持部を介して前記イヤホンの接続コード導出部に取り付けられているものである。

【 0 0 0 8 】

また、請求項 3 記載のイヤホン用アクセサリは、支軸を介して相互に回動可能に連結され、前記支軸より基端側に一对の把持部を、前記支軸より先端側に一对の挟持部を、それぞれ有するクリップと、このクリップ自体に装飾が施されて、前記クリップがアクセサリとして利用することができるものであり、前記一对の挟持部は、弾性部材により挟持されるものであり、前記クリップが前記一对の挟持部を介して耳穴に装着して使用する前記イヤホンの接続コード導出部に取り付けることができるものである。

【 0 0 0 9 】

また、請求項 4 記載のイヤホンは、電気音響変換素子を内蔵し、耳介の凹部に装着された状態で前記耳介の一部により支持されるように形成されたイヤホン本体と、前記電気音響変換素子に信号を供給する接続コードと、この接続コードを前記耳介の耳珠と対珠の間の下方に導出する接続コード導出部と、支軸を介して相互に回動可能に連結され、前記支軸より基端側に一对の把持部を、前記支軸より先端側に一对の挟持部を、それぞれ有するクリップとを有し、このクリップ自体に装飾が施されて、前記クリップがアクセサリとして利用することができるものであり、前記一对の挟持部は、弾性部材により挟持されるものであり、前記クリップが前記一对の挟持部を介して前記イヤホンの接続コード導出部に取り付けられているものである。

【考案の効果】

【 0 0 1 0 】

請求項 1 記載のイヤホン用アクセサリによれば、イヤホンにアクセサリを取り付けるため、イヤホンに装飾的な効果を付加することができ、また、アクセサリを取り付けられたクリップの一对の挟持部でイヤホンの接続コード導出部を挟持するため、イヤホンの接続用コード等を傷付けることを防ぐことができる。

【 0 0 1 1 】

また、請求項 2 記載のイヤホンによれば、イヤホンにアクセサリを取り付けるため、イヤホンに装飾的な効果を付加することができ、また、アクセサリを取り付けられたクリップの一对の挟持部でイヤホンの接続コード導出部を挟持するため、イヤホンの接続用コード等を傷付けることを防ぐことができる。

10

【 0 0 1 2 】

また、請求項 3 記載のイヤホン用アクセサリによれば、イヤホンにアクセサリとして利用することができるクリップを取り付けるため、イヤホンに装飾的な効果を付加することができ、また、アクセサリを取り付けられたクリップの一对の挟持部でイヤホンの接続コード導出部を挟持するため、イヤホンの接続用コード等を傷付けることを防ぐことができる。

【 0 0 1 3 】

また、請求項 4 記載のイヤホンによれば、イヤホンにアクセサリとして利用することができるクリップを取り付けるため、イヤホンに装飾的な効果を付加することができ、また、アクセサリとして利用することができるクリップの一对の挟持部でイヤホンの接続コード導出部を挟持するため、イヤホンの接続用コード等を傷付けることを防ぐことができる。

20

【 考案を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 4 】

本考案の一実施例のイヤホン用アクセサリ及びイヤホンを図面を参照して説明する。

図 1 乃至図 8 において、1 はイヤホン本体で、イヤホン本体 1 は、電気音響変換素子（図示せず）を内蔵し、耳介 2 の凹部（図示せず）に装着された状態で耳介 2 の一部により支持されるように形成されている。

30

また、3 は、イヤホン本体 1 に内蔵された前記電気音響変換素子に信号を供給する接続コードである。

また、4 は、接続コード 3 を耳介 2 の耳珠 5 と対珠 10（図 2 参照）の間の下方に導出する接続コード導出部である。

【 0 0 1 5 】

また、6 はクリップで、クリップ 6 は、支軸 6 a を介して相互に回動可能に連結され、支軸 6 a より基端側（一端側）に一对の把持部 6 b を、支軸 6 a より先端側（他端側）に一对の挟持部 6 c を、それぞれ有している。一对の挟持部 6 b は、弾性部材 20（例えば、バネである。）により挟持されるものである。

また、7 は、クリップ 6 の一对の把持部 6 b に取り付けられたアクセサリである。

40

そして、イヤホンの接続コード導出部 4 に一对の挟持部 6 c を介してクリップ 6 を取り付けることができるようになっている。

なお、イヤホン用アクセサリは、クリップ 6 にアクセサリ 7（例えば、編んだビーズ）を取り付けたもので、該イヤホン用アクセサリは、アクセサリ 7 を取り付けたクリップ 6 を一对の挟持部 6 c を介して接続コード導出部 4 に取り付けることができるものである。

なお、イヤホンを使用しないときは、接続コード導出部 4 からクリップ 6 を外し、例えば、図 9 に示すように、イヤホンの接続コード 3 を複数本を結束する結束部材として利用することができるし、また、図示しないが、髪、服等に直接、取り付けられるようにしても良い。

50

【 0 0 1 6 】

従って、上述したイヤホン用アクセサリ（イヤホン）によれば、イヤホンにアクセサリ 7 を取り付けることができるため、イヤホンに装飾的な効果を付加することができ、また、アクセサリ 7 を取り付けられたクリップ 6 の一対の挟持部 6 c でイヤホンの接続コード導出部 4 を挟持するため、イヤホンの接続用コード 3 等を傷付けることを防ぐことができる。

【 0 0 1 7 】

また、上述した実施例においては、クリップ 6、アクセサリ 7 を個々に形成したが、本願考案にあってはこれに限らず、図 1 0 及び図 1 1 に示すように、クリップ 6 自体に装飾が施されて、クリップ 6 がアクセサリとして利用することができるようにしても良い。例えば、クリップ 6 自体を、蝶の形態（一対の把持部 6 b を一対の翅に装飾した形態）にしたアクセサリである。

この実施例のイヤホン用アクセサリ（イヤホン）においても、上述の実施例と同様、イヤホンのアクセサリとして利用することができるクリップ 6 を取り付けることができるため、イヤホンに装飾的な効果を付加することができ、また、アクセサリとして利用することができるクリップ 6 の一対の挟持部 6 c でイヤホンの接続コード導出部 4 を挟持するため、イヤホンの接続用コード 3 等を傷付けることを防ぐことができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 8 】

【 図 1 】 図 1 は、本考案の一実施例のイヤホン用アクセサリを装着したイヤホンの概略的斜視図である。

【 図 2 】 図 2 は、図 1 のイヤホン用アクセサリを装着したイヤホンの概略的正面図である。

【 図 3 】 図 3 は、図 1 のイヤホン用アクセサリをイヤホンに装着する前の状態を示す概略的斜視図である。

【 図 4 】 図 4 は、図 3 のイヤホン用アクセサリをイヤホンに装着した状態を示す概略的斜視図である。

【 図 5 】 図 5 は、図 1 のイヤホン用アクセサリの概略的斜視図である。

【 図 6 】 図 6 は、図 4 のイヤホン用アクセサリをイヤホンに装着する前の状態を示す概略的断面図である。

【 図 7 】 図 7 は、図 4 のイヤホン用アクセサリをイヤホンに装着する前であって、一対の挟持部が開いた状態を示す概略的断面図である。

【 図 8 】 図 8 は、図 4 のイヤホン用アクセサリをイヤホンに装着した状態を示す概略的断面図である。

【 図 9 】 図 9 は、図 1 のイヤホン用アクセサリを結束部材として利用した状態の概略的図である。

【 図 1 0 】 図 1 0 は、図 1 のイヤホン用アクセサリと異なる他の実施例のイヤホン用アクセサリで、該イヤホン用アクセサリをイヤホンに装着する前の状態を示す概略的斜視図である。

【 図 1 1 】 図 1 1 は、図 1 0 のイヤホン用アクセサリをイヤホンに装着した状態を示す概略的斜視図である。

【 符号の説明 】

【 0 0 1 9 】

- 4 ... 接続コード導出部
- 6 ... クリップ
- 6 a ... 支軸
- 6 b ... 把持部
- 6 c ... 挟持部
- 7 ... アクセサリ

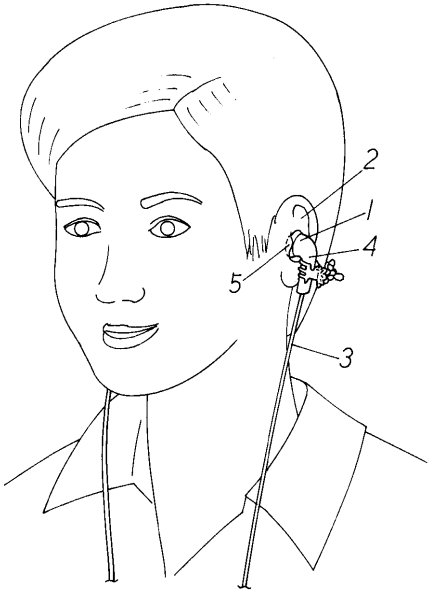
10

20

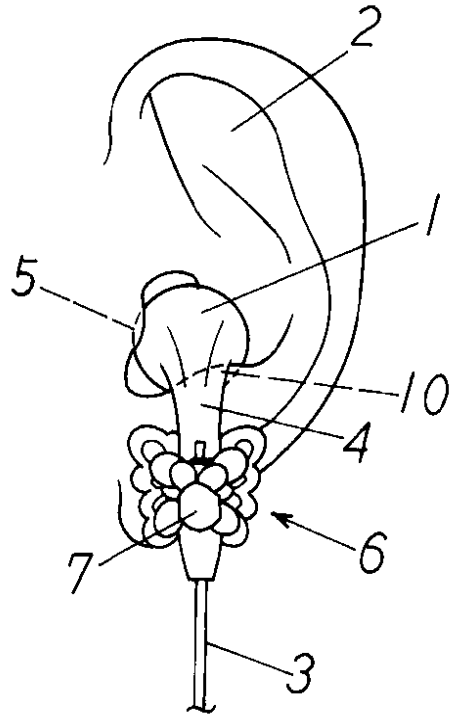
30

40

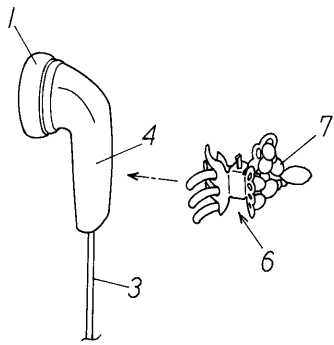
【 図 1 】



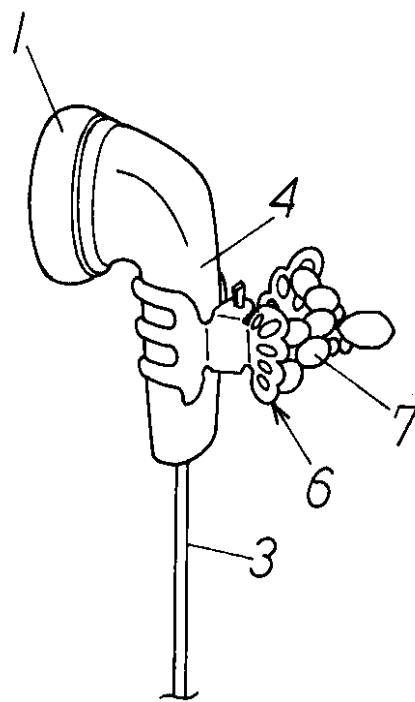
【 図 2 】



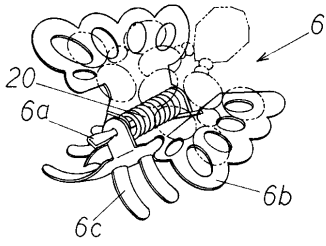
【 図 3 】



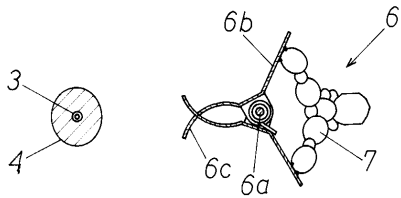
【 図 4 】



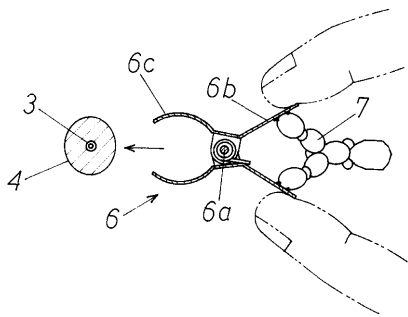
【 図 5 】



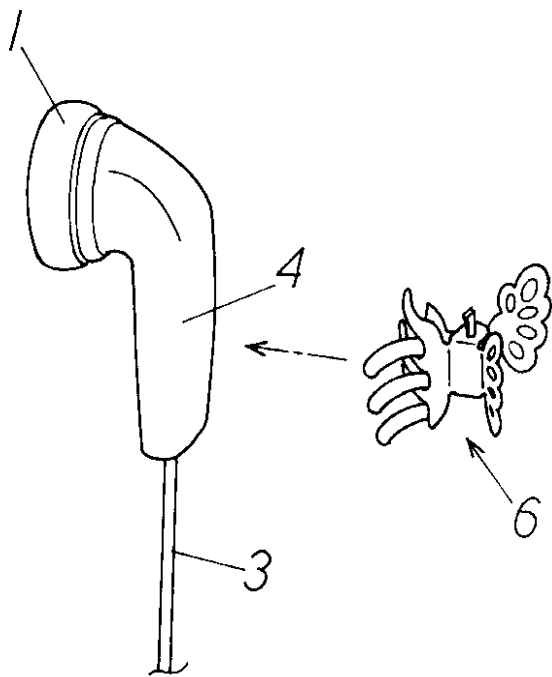
【 図 6 】



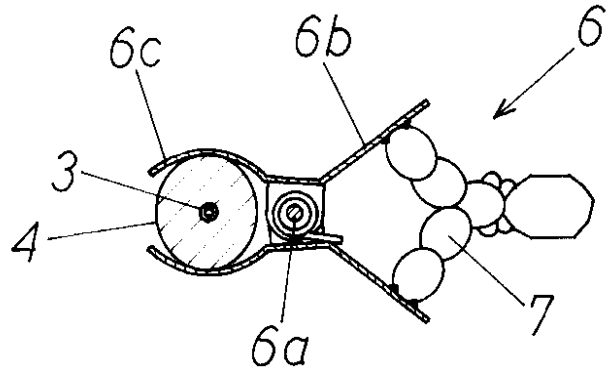
【 図 7 】



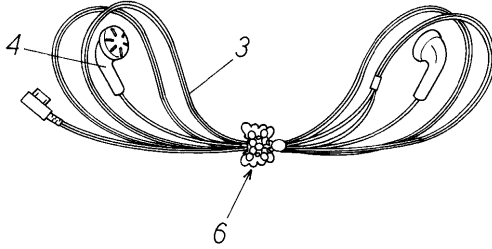
【 図 10 】



【 図 8 】



【 図 9 】



【 図 11 】

